



「隆起」 第70回記念長崎県美術展覧会 洋画部門 県美術協会賞

本作は、「そこに存在している」と感じられる実在感のある風景表現を目指し、普段見慣れている地面を主役として描きました。地面は身近な存在でありながら、自然の力強さや豊かさを感じさせます。その魅力や生命力を見つめ直し、絵画を通して表現しました。

見つめ直した自然

作者紹介

せ うら ゆ き
瀬浦 優妃さん

波佐見高校 美術・工芸科 3年(早岐中学校出身)



ここに注目!

特集

歴代議長に
インタビュー

はさみ 

No.176 令和8年8月号



議会情報

議会だより

町制施行70周年記念の特集として、歴代議長の皆さんに以下の4点についてご意見を伺いました。

- ① 議会だより（175号）の感想
- ② 在任中の思い出
- ③ 波佐見町議会に望むこと
- ④ 近況（座右の銘など）

15代

中島 廣義 議長



- ① 読みやすく素晴らしい。一般質問後の「つぶやき」の部分は質問しないのか。
- ② 一部議員の審議拒否で議会開会が午後からにずれ込み、傍聴者に迷惑をかけたことを今でも思い出すことがある。
- ③ 国政、県政に携わる議員との連携を強化してほしい。
- ④ 元気なうちに退任し、家業の手伝いと好きなゴルフを楽しんでいます。月に1～2回は会議のため県庁に出かけています。好きな言葉は、「信念と根性」です。

17代

大久保 進 議長



- ① 以前は表紙にこだわりがあったが、現在は素晴らしく変わった。内容もよく説明されている。若い議員で読みやすい広報紙を作成してほしい。
- ② 企業誘致や合併論議に奔走したこと。
- ③ 三町合併には、議会も賛成の方向で全力で動いた。今思えば、本町の財政問題を主に動いたことも考えさせられる。重要なときの議会としての方向性は、将来を多角的に考え、十分協議してほしい。
- ④ 「情熱 行動力 感謝」の気持ち

18代

松添 一道 議長



- ① 表紙には波佐見高校美術工芸科生徒の素晴らしい作品が掲載してある。生徒の励みになり、同校のPRにもなる。今後とも継続してほしい。
- ② 充実した議員生活であった。議長在任中は東日本大震災の対応などもあり、大変多忙だったことも思い出である。
- ③ 多くの町民の声を拝聴し、町政に反映してほしい。
- ④ 「この道より 我を生かす道なし この道を歩く」

武者小路 実篤

議長にインタビュー



19代

川田 保則 議長

- ① 表紙、各紙面ともに写真を多く使用していて読みやすい。
- ② 平成25年2月、「万年橋」の落成。
平成25年9月、「波佐見焼の器で乾杯を推進する」条例の成立。
- ③ 一般質問の登壇率が80%に達していることは県下でも類を見ないと思う。今後も続けてほしい。スケールが少々小さい質問も見受けられる。
- ④ 「晴耕雨読」晴れた日には家庭菜園。雨の日はテレビ、時々囲碁の練習。



20代

今井 泰照 議長

- ① 各課への質問・回答をシンプルにまとめ、スペースを十分に使い、読みやすかった。
- ② 平成16年に初当選した時には東彼三町合併の機運が高まっていたが、破綻後の町財政改革においては厳しい予算付けが強いられた。また議長在任中の2年間、県町村議会 議長会会長の職をいただき、県内外のさまざまな方々との親交は、今でもひとつの大きな財産である。
- ③ 本町は、ふるさと納税の活用などでいろいろな施策に取り組まれている。また地場産業である窯業振興にも大きなプラス材料である。議会としてはこれから5・10年先の町づくりを考慮したこれからの波佐見町のビジョンをつくってもらいたい。
- ④ 今回、自分を見つめ直す時間がとれましたが答えは見つかりません。これからも自問自答しながらの人生を過ごしていきたいと思います。



21代

百武 辰美 議長

- ① 委員会レポートは、わかりやすくまとめてあり、よく理解できた。一般質問では各位の意見や考え方をもっと前面に出してほしい。個人的には、色使いが気になり読みにくいと思われる。
- ② 議員定数の削減及び議員報酬の改定を行えたこと。
- ③ 執行部に対し、課題について迅速に解決するよう働きかけを強めてほしい。(文化会館利用や教育施設の統廃合、土地区画整理事業など)
- ④ 「なるようになる」(座右の銘)
議員各位のご活躍を祈念しております。

議長あいさつ

去る5月31日、波佐見町「町制施行70周年記念式典」が盛大に挙行されました。町議会を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。当日はご多用の折、多くの皆様にご臨席を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昭和31年の町制施行から70年、本町は窯業と農業を二大産業として、先人のたゆまぬ努力のもと発展を遂げてまいりました。近年はコロナ禍や原材料費の高騰、後継者不足など厳しい課題に直面しておりますが、伝統を守りつつ新たな挑戦を続ける窯業や、持続可能な農業への取り組みにより、町には再び力強い活気が戻りつつあります。これもひとえに、町民の皆様の献身的なご尽力の賜物であり、本町は、「住んで良し、訪れて良し」の魅力あふれる町へと進化を続けています。

この記念すべき節目の年を輝かしい未来への新たなスタートラインとし、郷土・波佐見町が次なる時代に向けてより大きく飛躍していくことを切に願うとともに、町民皆様のご健勝とご多幸を心より祈念いたします。

委員会レポート

文教厚生委員会

所管事務調査 教育委員会

- 1 南小学校区における放課後児童クラブの計画について
- 2 こども家庭センターでの放課後児童待機対策の状況について

開催日時・場所

令和8年4月22日（水）午前10時開議 委員会室

委員会所見（まとめ）

- 1 南小学校区における放課後児童クラブの計画について
 - ・現在の放課後児童クラブが今年度で閉鎖するとの申し出を受け、児童の受入れ体制の整備が進められています。
 - ・新施設の建設やリース物件での運営が理想ですが、今後の児童数の推移、建設費の高騰、公共施設等総合管理計画の延床面積の削減を考え、現存する公共施設の利活用となるようです。
 - ・南小学校の空き教室の活用も検討し、学校・教育委員会と協議されましたが、受入れが困難とのことで、現在、農村環境改善センターの大ホールを改修し、施設の利用を進められています。
学校と隣接しており安全であります。これまでこの大ホールを利用されていた団体、組織との調整が必要となります。
 - ・令和9年度開設となることから、早急な判断と体制整備が必要となります。今後の児童数の推移を踏まえ、空き教室の活用や、大ホールの改修内容、運営（公営・民営）等について、先を見据えた計画を進めてもらいたいと考えています。
- 2 こども家庭センターでの放課後児童待機対策について
 - ・現在、中央小学校区、南小学校区の30名の待機児童の受入れをされています。
 - ・令和9年度、南小学校区の放課後児童クラブの開設もあり、それぞれの校区内の児童クラブと調整を図り、待機児童がないように対策を講じてもらいたいと思います。

まち・ひと・しごと創生総合戦略について

調査の概要

本町の人口ビジョンを前提に、官民一体となって暮らしやすいまちづくりを行い、移住定住を促進するための方針として、「波佐見町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成28年に定められ、複数の改訂を踏まえ、現在3期目（令和7～11年度）の取組みが行われています。

取組みとしては、波佐見町役場全体が関わる事業群ですが、取りまとめを企画情報課にて行われていますので、全体像、そして主担当となる移住定住支援策について、どのような事業が進められているのか調査を行いました。

現在、5つの基本目標のもとに、各施策が紐付けられており、各担当課が評価指標の目標達成値を定めて取り組まれています。

毎年8月には、有識者による委員会において、前年度の達成状況について評価、検証を行い、施策は随時見直されています。

波佐見町まち・ひと・しごと
総合戦略(波佐見町HP)



基本目標及び施策

基本目標 1 人を育てる

施策1 これからの町を担う人材育成
施策2 幼小中高生に対する新たな事業の実施
施策3 感性を高めるための教育とイベントの実施
施策4 語学力をつける施策の展開
施策5 魅力ある教育環境の整備
施策6 女性の活躍社会の創出

基本目標 3 新しい人の流れをつくる

施策1 空き家対策
施策2 移住・定住 PR
施策3 関係人口拡大にむけた取組み

基本目標 4 若い世代の結婚・出産
子育ての希望をかなえ
子育て環境の向上を図る

施策1 男女の出会いの場の提供
施策2 子育て環境の充実と負担軽減

基本目標 2 産業の振興を図り
安定した雇用を創出する

施策1 波佐見焼の振興
施策2 農業の振興
施策3 観光の振興
施策4 企業誘致
施策5 商工業や個人起業に対する支援

基本目標 5 官民一体となって
暮らしやすいまちをつくる

施策1 自治会等独自活動に対する活動支援
施策2 大学との連携

▲波佐見町まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標

調査の所見・まとめ

令和6年、7年と2年連続で社会増（転入者が転出者を上回る）になったことは、町全体の移住定住政策が、一定の効果を発揮したことには評価したいと思います。

ただし、移住者の多くが佐世保市からの転入者であるため、今後も長期的な転入増を見込めるとは言い難い面があります。であるならば、人口が急増している福岡市近辺からの移住を促すような通勤・通学定期優遇策など、次の定住支援策についても、今後しっかりと研究を行っていただき、よい循環の維持を目指してほしいです。

また、定住奨励の事業については、今後見直しを検討するとのことですが、地元建設事業者などの関係者に対して丁寧な協議を行っていただきたいと思っています。



令和8年 5月臨時会の議案審議

■波佐見町名誉町民の選定について（一瀬 政太 様）

■地方税法の改正に伴う税条例の改正

■R7予算の補正状況（年度末の実績に基づく）専決処分の承認

・一般会計 補正額：3億8,000万円の減額 補正後の総額 114億4,000万円

【主な歳入】 増額：町税（641万5千円）、地方消費税交付金（3,144万6千円）

株式等譲渡所得割交付金（593万8千円）など

減額：町債（1億6,940万円）、繰入金（1億2,853万7千円）

寄附金（1億1,020万7千円）、国庫支出金（5,302万1千円）

県支出金（3,350万3千円）など

【主な歳出】 増額：JAライスセンター再編整備事業補助金（4,100万6千円）など

減額：土地区画整理事業費（1億9,150万円）

ふるさと納税管理費（1億71万円）

浄化槽設置整備事業費補助金（1,246万6千円）など

・国民健康保険特別会計補正予算

補正額：9,300万円の減額 補正後の総額 17億200万円

・後期高齢者医療特別会計補正予算

補正額：200万円の減額 補正後の総額 2億4,700万円

・介護保険事業特別会計補正予算

補正額：2,900万円の減額 補正後の総額 14億5,300万円

■財産の取得 学校給食センター スチームコンベクションオープン購入（1,331万円）

■繰越明許費（翌年度へ繰り越す事業） 20事業 総額 13億8,368万4千円

主な繰越事業と金額

・道路の維持・改修：7,646万9千円

・総合文化会館の改修：2,520万円

・河川の対策：6,184万2千円

・避難所の環境改善：619万6千円

・中学校のLED照明設置：1,500万円

・小学校のLED照明設置：8,590万円

・物価高騰対策子育て応援手当の支給：382万6千円 など

■繰越事業の報告 土地区画整理事業（単独）：6,350万5千円

令和8年 6月定例会の議案審議

■R8一般会計補正予算（第1号）

補正額 3,350万円の増額 補正後の総額 97億3,350万円

【主な内容】

・町制施行70周年記念事業 200万円追加

・モビリティ人材・組織（事業者）育成支援事業 2,100万円追加

・放課後児童クラブ後継施設関連設計委託料 400万円追加

・外国人人材活用事業補助金 400万円追加

・スポーツ・文化活動支援事業補助金（仮称） 250万円追加

■有料駐車場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例（1時間無料）

■農業委員会の委員の定数及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例の一部を改正する条例（推進委員を10名から8名に改正）

■固定資産評価審査委員会委員の選任（2名）

■農業委員会委員の任命（14名）

6月
定例会

11人が登壇 一般質問

一般質問の議員別動画は、
こちらから。6月定例会の
動画リストが表示されます。



一般質問項目

- ・基幹産業である農業問題と振興対策
- ・地方制度調査会の報告と町の見解

基幹産業農業の振興対策は

町長 支援策の検討に尽力する

岡村 達馬 議員



ここ数年の燃料や農業資材の高騰と併せ
今日では中東情勢緊迫化により新たな燃料
や資材供給リスクが高まっている。

内閣総理大臣は、自治体の人口減少など
による実情に応じた自治体構築を全国で急
ぐべく、地方制度調査会設置を行った。

議員 燃料の更なる高騰や幅広い農業用資材が
不足している。町として対応・対策ができるこ
とは何か。

町長 農繁期のこの時期、農家の皆様が大変心
配をされている。国などの物価高騰対策や支援
対策の情報を収集し、農家への提供をしたい。

議員 肥料や出荷用のコメ袋の調達が困難な状
況となっている。農家への支援・対策が必要と
思われるがどうするのか。

町長 個別の経営相談や具体的な支援ニーズに
ついては、農業団体や機関との連携を図りなが
ら丁寧に対応したい。

議員 日本の農家はこの65年程で1,200万人か
ら現在はその1/10の122万人。主な原因は農
家の収入とされ、8割は500万円以下、その内
の44%は50万円以下である。この現状をどう
考えるか。

町長 生産意欲は農業所得をどう増やすかだ。
ここ数年60kg米価は14,000円から、昨年の
32,000円と増加した。今後も検討していく。



増加する苗箱

議員 本町でも人口減少が加速度的に進んでい
る。これは行政、産業、地域自治会の持続可能
性に危機的状況を生む。対策をどうするのか。

町長 人手不足の中で、政府は国・県・市町村
の役割を調査審議するよう諮問し、令和9年末
の答申を目指している。

本町も14年後には12,000人まで減少するが、
人材確保などのほか、行政効率化を高める必要
がある。

急激に減少する波佐見町の人口

単位:人

人口ビジョン	2030年	2040年	2050年	2060年
波佐見町独自推計	13,168	12,066	10,980	9,943
社会保障・人口問題研究所	12,995	11,479	9,942	8,484

出典: 第3期波佐見町まち・ひと・しごと総合戦略

議員 市町村は住民に身近な自治体として、行
政サービスを提供する責務がある。広域サービ
ス移行への検討、課題の事業はあるのか。

町長 今でも県行政振興協議会に職員採用試
験、佐世保市に広域消防などを依頼している。ま
た、西九州させば広域都市圏では、情報の共有や
行政サービスの相互利用などが行われている。

議員 市町村事務の県移管検討についての具
体的な話はなされているのか。

町長 具体的な話はない。

つぶ
やき

人口が1,000人減るのに以前
は25年かかっていたが、今で
は7年である。特に学
校行事を見ていると児童・生徒の
数が驚くほど少ない。町の人口減
少は早まるのではないかと。





どうなる路線バス(佐世保嬉野線)

町長 路線維持に向け協議を行っている

前田 博司 議員

一般質問項目

● 地域公共交通

私たちの生活に欠かせない移動手段の一つが公共交通である。人口減少や、運転手不足が深刻化する中、地域公共交通を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、従来の路線バスだけでは、住民の移動手段をどのように確保していくかは、全国の自治体に共通する大きな課題である。

議員 かわたな・はさみタウンバス、乗り合いタクシーの本格運行の開始時期は。

町長 令和8年10月を予定している。

議員 佐世保嬉野線の運行維持に向けた協議状況と広域交通としての役割をどのように捉えているか。

町長 現在も多くの高校生が利用しており、鉄道のない本町にとって広域交通幹線として非常に重要であり、この路線の維持はまちづくりの根幹に関わるとの認識。

路線維持に向け、西肥自動車とは効率化や運転手の法定労働時間の確保、運行経費の削減を念頭に路線系統の分割や早岐での乗り継ぎの利便性向上、波佐見町内での折り返し地点の確保等協議を行っている。また、佐世保市など近隣自治体とは、路線再編計画とともに、それぞれ策定している地域公共交通計画における佐世保嬉野線の位置づけに関する手続きなどについて協議を進めている。

議員 広報のデジタル活用や乗り継ぎ改善など利用促進や利便性向上策はあるか。

町長 大変重要なことだと考えている。令和7年度には国の共創モデル事業を活用してタウンバスの車内放送に波佐見高校の生徒の声を採用したり車内の吊り輪や柱に波佐見焼の装飾をするなど取り組んでいる。

今年度は佐世保嬉野線の利便性向上を目的に再編を行うよう協議を進めている。その中で乗り継ぎ改善や現在の波佐見町の取組みの周知、

公共交通問題に多くの方々に参画していただくなど、組織づくりに取り組んでいる。

議員 ルート変更や延伸の可能性はあるか。

町長 タウンバスや佐世保嬉野線については今後、利便性向上や利用促進の観点から路線延伸や運行ルートの見直しを行う必要を感じている。

運行事業者や利用者の意見などを聴取しながら効率的で効果的な路線について検討する。

議員 運転手の確保や育成、車両管理、事故防止対策など、安全運行の取組みや今後の方針は。

町長 運行を委託している事業者と一体となって取り組んでいる。特に運行ルート上の支障木や道路の危険箇所については報告を受け、本町や川棚町で対応している。運行事業者においては法律に基づき運行管理者を配置し、ドライバーの健康状態などの確認を行うとともに運行前の車両点検を行う業務にあたっている。

またそれぞれにおいてドライバーに研修を受講していただいております。安全運行に関する意識醸成や知識の向上に努めていただいている。



かわたな・はさみタウンバス(イメージ)



住民の移動手段をいかに確保するかは、町の将来を左右するといえるのではないかと。

地域公共交通をみんなで守り育てましょう。



一般質問項目

- 観光振興
- 教育行政

観光客の安全管理は十分か

町長 十分に配慮する必要があると考える

田添 有喜 議員



本町への来町者は、増加傾向で県内外から注目される町となっている。町民をはじめ観光客にとって十分な安全対策が求められる。

議員 観光インフラの課題は。

町長 公共交通でのアクセスが脆弱であること、インバウンドの受け入れ体制整備、ホームページ等から観光施設や各店舗への誘導がある。

議員 観光地として交通インフラの整備はとても重要である。町道の整備状況は。

町長 基本的に自治会の要望に対応している。

議員 県道4号線や1号線の規制線（中央線）が消えている。県にどのように要望しているのか。



中央線が消えている県道4号線(ナフコ前)

町長 県と情報共有している。予算の関係もあり優先順位の高い道路から対応している。

議員 観光客が安心してサイクルを利用できるよう「自転車通行可」の標識の設置を警察等に要望できないか。町内の車道は狭くて車道を走行するのはとても危険。

町長 基本、自転車は車道を走行するようになっている。ただし、車道や道路の状況に照らして通行の安全を確保するために自転車が歩道を通行することが認められているので、レンタサイクルの利用者に周知したい。

議員 波佐見レンタサイクルの利用推移と管理・点検は。

町長 利用推移は、令和5年が235台、6年202台、7年が170台である。自転車の管理・点検は観光協会が行っている。

議員 観光客の安全確保のため、桜づつみの桜の木の点検や支障木（倒木の恐れがある木）の対応は。

町長 桜の木の点検は、今後専門家の点検を検討したい。支障木の対応は、今年度予算に計上した「森林整備事業費補助金」で対応できる。

議員 この補助金の申請は、自治会単位となっているか。

町長 個人でも申請できる。



支障木（倒木したら?）

揺れ動く社会情勢下にあっても、教育はまちづくりの根幹である。町は、教育課題の解決に対して多額の予算を投じ様々な取り組みが行われている。

議員 児童生徒の登下校時の安全対策は。

教育長 児童生徒の安全確保は、教育行政の最優先事項である。「通学路安全推進会議」において危険個所の抽出や環境改善を図っている。

議員 地域移行した部活動における「安全管理の徹底」や「保護者の負担軽減」はどうなっているか。

教育長 安全管理の徹底については、すべての地域クラブに民間のスポーツ安全保険等への加入を義務付けている。保護者の負担軽減については会費は年3,500円から12,000円に増えるが、指導者への謝金を町予算に計上し、協議会を補助することで保護者の負担軽減を図る。

議員 今年の郡中学校体育大会（中体連）は、土曜日開催で振り替え休日もなかった。なぜか。

教育長 全校あげての活動をやめ、選手のみが参加するという歴史的変遷である。理由は、学校残留生徒の対応に職員が不足し授業が実施できないことや、土曜日開催で生徒の休養保障の確保や振り替え休日がないので授業時数の確保ができることである。

議員 義務教育学校への取り組みは。

教育長 新しい時代にふさわしい教育環境の整備を連動させながら、一步一步着実に波佐見町にとってより良い学校の在り方を模索したい。



町民の安心・安全確保があつての観光振興である。優先順位は理解できるが、命の尊さには優先順位はない。道路（歩道）の整備や支障木（倒木）の対応は、早急に行うべきである。





部活動の地域移行の現状と課題は

教育長 指導者確保は過渡期

横山 聖代 議員

一般質問項目

- 部活動の地域移行

波佐見中学校では少子化に伴い学校単位での部活動維持が困難と見込まれる中、国のガイドラインに基づき地域移行を進め令和8年4月から運営組織が「波佐見町中学生スポーツ文化育成協議会」へ完全移行した。

議員 部活動地域移行の経緯と今後の計画、指導体制の内訳と地域指導者数を伺う。

教育長 令和6年から検討や説明を重ね、本年4月に全16クラブの組織移行を完了した。指導者へ1時間1,000円の謝礼を支給し、保護者には月額1,000円の負担金を求めている。大会補助金の継続や施設利用料の無料化等で環境を維持しつつ、現在は過渡期として柔軟に運用している。体制内訳は教職員のみ5、教職員と地域指導者8、地域指導者のみ3クラブで、登録数は教職員21名、地域指導者13名である。

議員 他校生徒の受け入れなど地域クラブとしての柔軟性が発揮されていない要因と課題は何か。

教育長 中体連夏季大会の参加資格に学校単位の枠組みが残る点が最大の要因。また、災害共済給付の対象外となり民間保険加入が必須となったことで現場が慎重になっている。財政や事務の負担、受け皿の未成熟さも課題であり、今後は大会参加形態の整備や責任の明文化など安定運営を目指す。

議員 地域指導者確保へ向けたスポーツ協会等への働きかけの進捗と、長崎県の指導者エントリーシステムの活用状況は。

教育長 協議会の構成員である各協会へ説明を行ってきた。システムは地域性に見合うマッチングが難しく未活用だが、今後の制度化に合わせ導入を検討する。

議員 指導者確保の障壁は何か。

教育長 技術面だけでなく、教育的配慮や人的安全性の確保、平日の仕事との兼ね合いや処遇面、また指導者の高齢化もある。

議員 日本版DBS：性犯罪歴確認制度を指導者登録基準に紐づけ、安全網の検討を進めるべきでは。

教育長 現在は、規約にハラスメント等の即解任条項を設けた。日本版DBSシステムの導入についても、安全網強化に向け活用していく。

議員 教職員や地域指導者に対し、ライセンス取得費等の助成制度の検討は。

教育長 現在は5,000円を考えている。

議員 これまで町から部活動振興会へ補助金を交付し、各部へ配分していた。今年度からは協議会を通じて各クラブへ配分されることとなったが、その対象範囲はどのようなものか。

教育長 補助金の対象は、これまで学校部活動として運営されてきたクラブが地域移行したものを基本とする。また、今後新たにクラブが設立される場合についても、1競技につき1クラブを原則として、補助金の交付対象とする考えである。

議員 これまでは、部活動振興会に年3,500円納めていたのが、8年度から協議会に年12,000円となる。多子世帯や低所得世帯への減免措置の検討は。

教育長 極力負担にならない額を設定しているため、現在は検討していない。多子世帯へはクラブ内で会費を下げる等の調整がなされている。物価高騰もあり今後検討の余地はある。

議員 「地域移行」から「地域展開」と言われるようになった。これをどう捉えているか。

教育長 単なる組織の引っ越しから、学校と地域が協働して地域全体で子供たちを支え発展させるステップへの移行と捉えている。



全国に先駆けて「波佐見モデル」を始動させた熱意に敬意を表す。誰も経験のない過渡期の課題を地域ぐるみで一つずつクリアし、子供たちの「やりたい」を守る展開を期待する。



一般質問項目

- 少子化・物価高における
学校教育のあり方

学校のあり方を検討する協議会立ち上げを

教育長 検討時期がきたので準備を進めたい

城後 光 議員



少子高齢化の進展により、今後の本町児童数は大きく減少することが予測されている。現在3小学校合計児童数は756人であるが、令和14年には648人と約15%減少が想定されている。

波佐見町児童生徒数推移

区 分	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
東小学校	134	126	113	116	112	108	105	95	84
中央小学校	369	386	368	375	375	371	342	316	314
南小学校	276	285	275	278	279	286	274	262	250
小学校合計	779	797	756	769	766	765	721	673	648
中学校	409	381	398	386	388	369	381	379	368
全児童生徒数	1,188	1,178	1,154	1,155	1,154	1,134	1,102	1,052	1,016

※R8年以降の数値は、R8.4.1現在

議員 長期的視野に立って将来の学校のあり方を保護者・有識者とともに検討する協議会を立ち上げる考えはないか。

教育長 少子高齢化の進展、物価高騰下における公共施設のあり方を踏まえても、今後の学習環境や質の確保という視点からも、中長期的な視野にたった学校のありかたを検討する時期に立っていると考えます。

今後は、近隣自治体の具体的取り組みや課題を調査研究し、保護者、学識経験者、地域住民、学校関係など、広い分野から関係者が参画する協議会の立ち上げに向け、具体的な時期等の検討を進めたい。

議員 今後小中学校の学校施設の長寿命化改修に際し、直近でどのような改修計画があるのか。またどの程度の費用を想定しているのか。

教育長 校舎屋上の屋根改修に来年度から約2.8億円、校舎等の外壁改修に約4億円、校舎内部の改修に約1.2億円、老朽化した電気施設の更新に約2億円。これらトータルで10億円超の改修費用が直近で見込まれる。

議員 どのような方針で小学校の将来のあり方を考えていくつもりか。

教育長 学校の統廃合は非常にデリケートな問題ではあるが、東小学校児童数が、令和13年度

100名を下回り複式学級になるという点は、教育環境的には厳しいと思う。しかしながら地域にとって学校がなくなることは非常に影響が大きいため、単純に統廃合ありきではなく、どういう形が本町にとってもっとも望ましい教育環境となるのか、現役保護者の方々の思いを最優先しながら、関係者が集い研究していきたい。

一人一台タブレット配布、ペーパーレス化の進展など教育分野でもDXの取り組みが進んでおり、様々な効果が見えてきた。

議員 学校の集金は、現在封筒による現金徴収の形が採用されている。教職員、保護者の手間を減らすためにも、口座振替など現金に頼らない方法に改善できないか。

教育長 事務的な手続きは、過去に比べれば随分楽にはなっていると感じるが、手数料・管理等新たに生じる課題と、現状の手間の削減と、双方をよく学校関係者と協議の上、ベターな方向で進めていきたいと考えている。

議員 学校を取り巻く事件・事故は、全国で発生している。本町では見守り活動が地域で展開されているが、考えられない事件も増える中で子どもの見守りについてシステム面を導入する考えはないか。

教育長 近隣市町において、そのような仕組みの導入がなされていることは存じている。メリット・デメリットを研究した上で、本町にいかに関活用できるかについては研究検討していきたい。



これまで、学校のあり方検討について、一貫して否定的だった教育長の姿勢が転換したことは素直にびっくりだった。ぜひ早めに進めてほしい。





波佐見の農業を廃らせないためには

町長 様々な手法で果敢にチャレンジすること

岡村真由美 議員

一般質問項目

- 放課後児童クラブの新設
- 農業後継者及び新規就農者への支援

3年前の9月に要望した南小校区の「学童」の公設がようやく動き出した。改善センターのホールを改修して使用する方向で設計のための予算も計上された。子どもの健全な成長、保護者の安心、地域住民の利便性など、これらを担保できる施設になるのか。

「学童」クラブ名	R6	R7	R8
げんき	85	103	100
E T	114	118	122
おいでおいで	45	41	39
よりそっと	—	18	29
合計	244	280	290

町内4「学童」施設の登録者数の推移

議員 新たに町で設置するに至った経緯は何か。

町長 現在運営している方から閉所の意向があった。①南小の近く ②公の施設の面積を増やさない ③60人まで収容できる この3点を条件に検討した。

議員 南小も候補にあがったと聞いているが。

町長 学校側から「空き教室はない」「悪い（見えない）影響がある」という理由で断られた。

議員 入り口とトイレのみを改修し、ランドセルの収納スペースを設けると聞くと、工事費の財源は。

町長 国の補助事業とし、町の負担は建設費用の1/6で済む予定である。

議員 ホールを利用している方々との調整は。

町長 時間帯が重なる場合は、中央を仕切り入り口側半分を使用することになる。



南小方面から見た「改善センター」のホール

議員 外遊びの場所としては、南小のグラウンドではなく、センター右側の芝生広場とされているようだが、遊具は設置するのか。

町長 設置しない。鴻ノ巣公園のふれあい広場まで行けば遊具はある。

議員 運営主体はどこか。

町長 民間委託とする。提示する条件と合致する事業体がない場合は、町が直接運営する方式も排除しない。

議員 災害時の避難場所に指定されているが。

町長 避難場所としての利用を優先する。

コロナ禍を経験した若者の一次産業志向が全国的に高まっている。本町においても近年若い就農者が見られるようになった。この流れを一過性としないうちに、町や町民にできることは何か。

議員 近年の新規就農者の数と推移は。

町長 令和4年度2名、6年度2名、8年度3名。年代は、20代1名、30代1名、40代5名。7名の内、3名が農家の後継ぎで4名は非農家出身。

議員 新規就農者の抱える問題は。

町長 イチゴやアスパラガス等の施設園芸ではハウスの建設費用の高騰が問題となっている。

議員 国の「中山間地域等直接支払い制度」の成果は。

町長 耕作放棄地の抑制に大きく貢献し、農業基盤の維持管理にも寄与している。また地域コミュニティの活性化にも役立っている。

議員 町は「農林業活性化大会」を開催しているが、若い人の参加が少ない。新規就農者の問題や悩み、課題に対応する場を設ける考えはないか。

町長 他地域の例を参考に、就農に向けた情報発信をしていければと考えている。

議員 長年使われていない耕作放棄地を、農業に関心がある人に提供するようなシステムは作れないか。

町長 農業体験の希望があれば、相談に応じたい。



「上も下もない」と繰り返されたが、下地区には集える施設は改善センターのみ。なのに新「学童」を併設。しかも小規模改修で。これで「子育てに優しいまち」なのかな？





前川町長は、本年9月に1期目の任期満了を迎える。

この4年間、就任前の公約や所信表明で掲げた施策の実現に向け、「波佐見町の勢い」を止めないことを目標に、「継承、変革、進化」を基本方針として、町政発展に向け様々な施策に取り組まれてきた。

議員 公約や所信表明の施策についてはどの程度達成できたか。また、その成果はどのように考えるか。

町長 公約並びに重点施策の実施についてはそれぞれの事務事業が円滑に推進できた。

その中で、小中学校の学校給食費の完全無償化をはじめ、地場産業である窯業については人材育成や福利厚生改善への支援、天草陶土の値上げに対する緊急支援、農業においても、農業機械導入補助金の拡充など着実に実施できた。また、「かわたな・はさみタウンバス」の構築など新たな地域課題についてももしっかり対応できた。

令和6年・7年の2年連続で「人口の社会増」を成し遂げたことは、大きな成果と考える。

議員 公約であった小児科の誘致はどのような状況か。

町長 他市町をみても小児科、産婦人科が減ってきている中、大きな問題となっている。

町内の医師会とも協議を重ねているが、思っているような結果に至っていないというのが現状である。

議員 町政運営において、職員間の連携や人材育成についてどのように取り組んできたか。

町長 新人職員については、「トレーナー制度」、採用5年目の職員には、町内企業や関係団体に派遣を行い、民間の考え方や業務体験を通じたノウハウの経験を積ませている。またそ

の他にも、若手議員の県との人事交流、内閣府地方創生本部への派遣、地域未来創生スクールなどへの長期研修など、多くの経験を積むことによって役場職員としての資質向上を図っている。

個々の職員の力だけに頼るのではなく、組織に力を結集できるよう班や課全体で方向性の共有を図っている。

議員 本町の今後の持続的な発展のため、人口減少対策や基幹産業の振興などの課題についてどのように考えているか。

町長 「人口の社会増」を成し遂げたことは「子育て世代」への投資に加え、創業支援、移住定住支援、基幹産業の振興など、町全体の施策が相乗効果となって現れた効果だと考えている。

特に窯業については、天草陶土の値上げ、人材不足への対応、業界内をまとめる組織のブラッシュアップなど、喫緊の課題が山積しており、業界の皆さまと連携を深め、施策の具体化を図りたいと考えている。

加えて、行政の効率化、ふるさと納税や自治体DXなどの対応も必要であり、リーダーシップを取り、職員一丸となって本町の発展のため引き続き邁進したいと考えている。



公約や重点施策及び、公共交通機関の整備など地域課題についても順調に取り組まれてきているが、まだまだ様々な課題点もあり、解決に向けて取り組んでもらいたい。





総合文化会館大規模改修の見直しは

教育長 計画的に整備を進める

脇坂 正孝 議員

一般質問項目

- 波佐見温泉湯治楼裏の可動堰
- 波佐見町総合文化会館の改修

3月議会では、総合文化会館を大改修し再生を図るとの答弁であったが、一転して同事業を見直すとの説明に変わった。しかし利便性の向上や長寿命化のためには、最低限の補修が必要である。

議員 大規模改修を見直した要因は何か。

教育長 同館は建設から約29年が経過し老朽化が顕著に進んでいる。昨年10月に設計業務を委託し、積上げを行ってきたが、その後の工程会議で詳細を精査した結果、図書館整備に加え施設全体の補修費用が想定以上となった。

様々なコスト上昇が背景にあり、そのため一時に多大な財政負担を集中せず、年次計画的に改修を行う方針へ転換した。



改修予定の図書館入り口扉

議員 長寿命化計画はどうか。

教育長 空調設備、放送設備の更新、消防設備、エレベーターの改修等を年次計画に基づき計画的に整備を進める。

議員 総合文化会館の休館日は、日曜日や国民の祝日、年末年始、お盆など規則に定めがあり利用が制限される。見直しが必要ではないか。

教育長 見直しの必要性は十分に認識している。図書館を含めた本施設は、地域の活力を育む「知と交流の拠点」や「防災・安全の空間」の役割も求められている。図書館の開館時間の延長などを含め、今年度中に改訂できるよう努める。



劣化している外壁

議員 検討委員会の意見はどうだったのか。

教育長 厳しい財政環境や物価高騰等の背景を含め、丁寧に説明し、一定のご理解をいただいた。

議員 早急に補修が必要な箇所としてはどうか。

教育長 図書館については、入り口防火扉、読み聞かせスペースの改修、閲覧用テーブルの一新、雨漏り対策（防水工事）である。文化会館全体として、LED、1階の男女トイレ、大ホールの扉の改修、学習スペースの確保等を計画的に実施する。



総合文化会館は本町を代表する文化・生涯学習施設である。加えて防災や交流の場でもある。現状で大規模改修は困難としても質の高い、利用しやすい施設にしてほしい。



一般質問項目

- ・波佐見町プレミアム付き商品券
- ・定住奨励金制度
- ・波佐見陶器まつり

定住奨励金、14年間の交付実績は

町長 552件、総額2億2,350万円

澤田 昭則 議員



物価高騰に伴い、町民生活への影響や地元商店の経営悪化を懸念し、本町では「波佐見町プレミアム付き商品券事業」等による経済対策が実施されてきた。

議員 これまでの商品券事業における効果と今回実施されている事業の見込みは。

町長 プレミアム付き商品券事業は物価高騰に直面する家計負担を軽減するとともに、地域経済の活性化につながった意義は大きいものである。商品券の利用を通じて、これまで町外で消費されていた購買力が町内に還流され、特に小規模商店や飲食店など、地域に根ざした店舗の売上増加につながり、地元事業者の経営の下支えにつながっている。直近の事業実績として「令和7年度波佐見町プレミアム付き商品券事業」では利用総額が3億7,343万円となっており、223店舗の町内の幅広い業種で活用された。また、現在の「令和8年度プレミアム付き商品券事業」もプレミアム率のアップ等により、これまで以上の効果を期待する。

議員 今後、生活支援として新たな計画があるのか。

町長 今後の取組みとして上水道の減免措置などタイミングを見て実施するなど、今後も物価の動向や国・県の経済対策を注視しつつ、必要な支援を柔軟かつ迅速に検討する。

人口減少対策には本町への移住促進と若年層の定住促進が不可欠である。

議員 定住奨励金制度の拡充や見直しは。

町長 過去14年間の奨励金の交付実績は552件総額2億2,350万円になり、平均で1年あたり約40件、1,600万円となる。奨励金により定住者は着実に増加し、特に近年においては2年連続で転入が転出を上回る「社会増」を記録し、定住対策として一定の効果があつた。しかしながら、求められる対策も変化していることから、新たな施策の政策立案も視野に一定の区切りも考え、今後事業効果を検証し時代に合った政策を考える。

今年も「波佐見陶器まつり」がやきもの公園を中心に開催され、約26万人の来場者で大きな賑わいを見せた。

議員 運営面における成果と課題は何か。

町長 期間中の来場者は前年と同じく26万人という長崎県内でも最高水準の来場者数を記録し売上も好調に推移した。これは積極的な広報活動に加え、キャッシュレス決済導入など利便性の向上への取組みが奏功したものである。また、町内飲食店や事業所への波及効果も大きく、地域経済の活性化に貢献した。一方、最大の課題は会場周辺の交通渋滞であり交通インフラが限界となり、大規模な渋滞が発生した日もあつた。加えて、会場内の混雑により携帯電話がつながりにくくなるなど連絡の不便さや万一の際の連絡手段の確保に課題を残した。町としても、交通アクセスや通信環境の改善、安全対策の強化、効率的な運営体制など、陶器まつり協会と連携し必要な支援を行う。



令和8年度波佐見町プレミアム付き商品券

つばき
物価高の中、支援のスピードと公平性が問われています。商品券販売からクーポン配布への転換など、皆様へ確実かつ迅速に届く効果的な生活支援に全力で取り組んでもらいたい。





本町の災害対策は

町長 災害に強いまちづくりに邁進

北村 清美 議員

一般質問項目

• 災害対策

災害とは、地震や台風・大雨・土砂崩れなどの自然現象や、事故・火災などの人為的な原因によって、人命、財産、社会生活に重大な被害が生じる事態で「自然災害（天災）」と「人為災害（人災）」がある。最近では昨年11月に大分市佐賀関で住宅など196棟が焼損した大規模火災は、発生から半年となる。また、本年4月岩手県大槌町の山林火災は昨年の岩手県大船渡市に次ぐ平成以降2番目の山火事になった。災害は本町も他人事でなく1年中身近に感じられる状況である。また、災害に備え被害を最小限に食い止める「減災」の観点から、「自助」・「共助」・「公助」の3つの要素を連携させることが重要であり、だからこそ、「想定外を想定内にする視点」と「思い込みをなくす姿勢」も併せて重要な要素である。

議員 災害対策は4項目に分かれる。個別避難計画は。

町長 懸念されることは災害弱者に対する備えで、避難行動要支援者の人たちの個別計画を作成中。現在2割程度で、継続的に進めていく。

議員 避難所及び避難者数は。

町長 現在32か所、避難収容数は概ね2500名。

議員 避難所の環境改善は。

町長 昨年度、体育センターにLPガス発電による空調機を設置した。人口の5%の3日間分の生活できる水・食料品・簡易トイレ・簡易ベッド(354)なども備えている。民間のスーパーや長崎県のキッチンカー協会とも包括連携協定を結び、あたたかい食事を提供できる体制を整えている。



LP ガス発電による空調機



避難所備蓄の簡易ベッド



凝固剤が入り、燃えるゴミで処分できる洋式トイレ

議員 簡易トイレはどれくらい用意しているか。

町長 携帯型トイレは360個だが、洋式で凝固剤が入って自動的に巻き取って燃えるゴミで処分できるトイレを12基購入した。

議員 防災無線が聞こえない地区の対策は。

町長 昨年度まで3か年で防災行政無線を更新。個別受信機で受信できない場合は、自宅にアンテナを設置している。

議員 情報伝達の方法は。

町長 本町は国のLアラートを通じて、スマホまたは携帯に情報配信している。また、屋外スピーカーとあわせ、自宅に個別受信機を全世帯に配布。これは県内見ても自慢できるシステムである。

議員 停電時の情報伝達は。

町長 新庁舎に移行した折、自家発電は48時間稼働を導入し、防災システムも接続した。そして、蓄電池を常備しており、48時間は伝達可能。一方、個別受信機も乾電池使用のため受信できる。

議員 災害弱者の独居高齢者・乳幼児・障害者のサポート体制は。

町長 それぞれの個別避難計画の中で個々に応じた対応が必要。社会福祉協議会、自治会とも連携し、支え合いマップ作りなど情報共有している。

議員 本町は耐震化水道管設置が他町に比べ非常に劣りする。せめて、長崎県の平均設置状況に追いつくように最優先事項にすべきではないか。

町長 町の重要施設、小中学校、文化会館、避難所及び災害の多い箇所、地すべり防止区域を重点的に進めていきたい。だが、経営的に厳しい状況であるため、料金等の見直しも検討している。

議員 災害時には行政だけでは限界がある。しかしながら、行政が事前に備えれば「救える命」があることも事実。そこで「共助」の中で自主防災町民組織の強化を図るべきではないか。

町長 「公助」は限られているので、「共助」・「自助」に頼らざるを得ない。今後とも町民の皆様と共に「災害に強いまちづくり」に邁進したい。



町長は法に基づく警戒区域の設定のほか立ち入り禁止や退去命令など強力な権限を有するが、その決断がなされないよう災害に強い町を願うばかり。



一般質問項目

- 交通指導員
- 職員の定数確保に対する取組み

パワハラを行ったことはあるか

町長 業務の潤滑油として茶化したことはある

三石 孝 議員



季節ごとの交通安全週間をはじめ、イベント観光を進める本町にとって、欠かせないのが交通指導員である。しかし、その処遇改善が進んでいない。

議員 現在、定数22名に対して3名不足。対応は。

町長 後継者が不在地区は、継続して探している。

議員 謝礼について令和3年の見直しから漏れており、その対応はどうする。

町長 改めて改定すべきと考える。

議員 任期は2年で、勤続22年以上が4名、10年以上が5名、10年未満が7名と新人3名の構成である。退職時は感謝状一つと聞く。退職金制度の創設は。

町長 前向きに実現させていきたい。

議員 町の様々なイベントのほかに、地域や地区のイベント等への協力要請も多く、主催者との対応については、行政が調整役を行うべきと考えるがどうか。

町長 昨年度から、一部仲介を行うようにしている。

議員 交通指導員は、雨が降ろうと、暑かろうと、寒かろうと、制服に身を包み、歩行者の安全や交通のスムーズな流れをサポートすることによって、イベント



交通指導風景

観光を支えている。9月議会の補正予算で対応を。

町長 退職を伴う処遇改善について前向きに検討する。

職員数の確保は、行政サービスの根幹に関わる。職員採用試験は毎年行っているが、退職者も多い。

議員 過去5年間の採用者は、27名で、退職者が24名、(定年退職者4名、自主退職者20名)であるが、どこの市町も同じと回答していたが、川棚町は過去5年間で退職者はゼロ。全然違うではないか。

町長 具体的数字を把握していなかった。お詫びする。

議員 20名の退職者の退職時の部署はどうか。

町長 1階の窓口業務を伴う部署に10名いた。

議員 人事異動後退職者は、退職までの期間はどうか。

町長 異動後1年未満が6名、1年以上2年未満が5名。計11名が退職した。

議員 人事異動は、人事評価等を基に実施され人事権は町長にある。「勝ち組・負け組」の評価をしていると聞くが本当か。

町長 勝ち組・負け組の評価をしたことは一切ない。

議員 火のないところに煙はたたない。現状の1年中採用試験、1年中退職手続きを繰り返さないために、新人職員にメンター制度を導入したらどうか。

町長 勉強して、前向きに考える。

議員 退職時面接も行うというが、退職理由に「ハラスメント」がないのは不思議である。特にパワハラの被害者は、その後、うつ病や適応障害、心的外傷後ストレス障害など、社会復帰さえできないこともあると聞く。ところで、町長は現職の時「パワハラ」を行ったことはないか。

町長 業務上、「茶化した」ことはあるが、当時の風潮としては、仕事上の指導の一つである。

議員 「茶化す」という言葉を使うこと自体がハラスメントを行う者の感覚である。しかし、被害者は決して忘れないものだ。人生設計が狂ってしまったのだから。町長には「天網恢恢（てんもうかいかい）疎にして漏らさず」この言葉をプレゼントする。

町長 執行部側が、職員にパワハラを行っているような指摘であるが、職員の中には、議員の指導に怖がっている。議員の顔を見ただけで震えるなど、たくさん相談があっている。これは執行部側ではない。

議員 今日の一般質問の中身に沿って話をしている。職員が相当数辞めているが、パワハラの実態も事実である。今後、定着率の良い職場環境を作るための改善策を議論している。その前提で回答を求めている。

町長 職員が働きやすい職場をつくるのは、私の務めである。議員の提案を検討しながら、しっかりと取り組みを進め、若年層の退職者が増えないように対応する。

つぶやき

過ちを素直に認めない。自分が追いつめられると相手を責め立てる。権力に溺れる勝ち組の手法か。誠に哀れである。



本議会で審議された案件

議案
26件

報告
2件

詳細は6ページ。

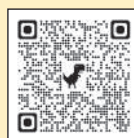


それぞれの審議
結果はこちら

			審議の結果
5月臨時会	名誉町民	■波佐見町名誉町民の選定(前波佐見町長 一瀬 政太 様)	可 決
	補正予算	■R7一般会計(第8号・専決) ■R7特別会計 国保(第4号・専決)、後期高齢(第3号・専決)、介護(第4号・専決)	承 認
	条 例	■税条例の改正(専決)	
	財 産	■給食センター スチームコンベクションオープン(2台)の取得	可 決
	報 告	■R7年度一般会計予算繰越明許費繰越計算書 ■R7年度一般会計予算事故繰越し繰越計算書	
6月定例会	補正予算	■R8一般会計(第1号)	可 決
	条 例	■有料駐車場の設置・管理条例の一部改正 ■農業委員会の委員・農地利用最適化推進委員の定数を定める条例の一部改正	
	人 事	■固定資産評価審査委員会委員の選任(2名) ■農業委員会委員の任命(14名)	同 意

※専決(専決処分)…緊急時、議会を待たずに町長が判断すること。

次回定例会は9月25日から
10月19日までを予定しています。



「議会だより」へのご意見をお待ちしています。

◀ご意見QRコード

編 集 後 記



去る7月2日、長崎県町村議長の主催で県下の町議会議員の研修が行われ、「一般質問の仕方」を主眼においた講演は、議員の関心も高く有意義なものになりました。

定例議会ごとに発行する、この『議会だより』のほとんどは、各議員の一般質問にページを割いています。一般質問が、議員活動の全てではありませんが、町民の代弁者として政策提言の場としては、貴重な機会となっています。

この研修を踏まえ、さらに有効で充実した一般質問の内容を『議会だより』の紙面を通してお伝えできるよう努力していきたいと思っています。

(三石 孝)

「議会だより」編集委員

委員長	岡 村 真由美
副委員長	澤 田 昭 則
委 員	前 田 博 司
	脇 坂 正 孝
	三 石 孝

発行責任者

議 長 尾 上 和 孝